



巻 頭 言

未来の創造と過去の知恵

常務取締役 竹 鼻 俊 夫

当社の持つ技術内容を多くの皆様に理解していただこうと当誌を創刊してから7年が経過しました。幸いにもご好評を得て、今回14号を発刊することができ、読者各位、執筆していただいた方がたに心よりお礼申し上げます。

この間、英文技報「FUJITSU TEN TECHNICAL JOURNAL」を1988年2月に創刊し、また、昨年10月には特集号としてカーオーディオシステムへ応用したDSP (Digital Signal Processor) 技術をまとめて紹介させていただきました。

自動車エレクトロニクス技術は近年ますます発展し、高度な制御を行ったり、乗員に快適な環境を提供することに役立っておりますが、今後、さらに高度な電子技術が要求されることが予想されます。

国内の経済は長期にわたって好況が続いており、自動車の登録台数においても全国では5,700万台以上になり、幹線道路や都心部での交通渋滞が大きな社会問題となりつつあります。

車を走行させる時間コストだけで、優にGNPの一割を越えるという試算があり、自動車1台当たりの道路資産が欧米諸国の数分の1以下といわれるわが国の現状では、道路の有効活用が重要な課題であります。

最近自動車走行電子技術協会より“クルマが変わる。道路が変わる。”
—インフォ・モビリティ時代を拓く— という本が発刊されましたが、そのなかでは、エレクトロニクス、情報処理、通信技術によって、高度なクルマ社会を創り出そうという夢が語られています。

「インフォ・モビリティ」という言葉は最近、専門家の間で使われはじめた新しい概念であり、インフォメーション・モビリティ技術でクルマがかかえている課題を少しでも解決しようとするものであります。

当誌で紹介した論文のいくつかは「インフォ・モビリティ」に関係するものであり、当誌がこの面でお役に立てばと願っております。

自動車用エレクトロニクス機器は民間主導型で発展して来たこともあって、世界的な規模での規格の統一は航空機、船舶等に比べ、遅れているようであります。欧州では国道が国と国との間を縦貫しており、西独で開発されたラジオ情報交通システム（ARI）を各国が協力してより有効なシステム、RDS（Radio Data System）に発展させて、EC統合を機会に欧州全域へ設置しようとしております。わが国でも1620kHzのラジオ交通情報の全国統一波による運営とか最近では準マイクロ波帯（2, 3 GHz付近）による交通ビーコンを全国に設置しようとする計画も進められていることを知り、嬉しい限りです。

規格の統一が技術開発を促進して来た事例として、米国軍用規格（MIL-STD）が、航空電子機器の開発標準体系として戦後わが国に導入され、機器の性能、機能、品質面だけでなく、開発ステップにおける評価基準まで明確に規格化されていて、非常に効果のあったことがあげられます。車社会の発展にとっても「インフォ・モビリティ」に必要な電波規格、電磁規格、電磁波妨害、高周波雑音など世界的な規模での規格統一が重要であり、わが国も積極的に参画することが望まれます。

当誌発刊の目的として、当社で開発して来た技術をそれまでの知恵として確実に記録にとどめ、未来への創造に役立てようと考えております。掲載論文すべてが、高度な最先端技術ではありませんが、地道な努力をして来た一端をご紹介します、激動する世情へ、若い技術者が意欲をもって明日への創造に努力する一助になればと考えています。

今後とも、ご支援とご厚情のほどお願いする次第であります。